

第二次霧島市総合計画(前期基本計画)総括シート

政策体系	政策No.	1	政策名	にぎわい(産業の活力があふれ、交流と賑わいが生まれるまちづくり)				施策幹事課		
	施策No.	4	施策名	地域特性を生かした観光の推進				観光PR課		
計画期間(2018年度～2022年度)における施策の方針 (総合計画書から引用)								関係課		
<p>大自然に恵まれた、魅力あふれる「観光地・霧島」という認識を市民と共有し、国内外の観光客に「選ばれる」「また訪れたくなる」観光地づくりを目指します。</p> <p>そのため、観光客のニーズに合った観光素材の創出や活用、インターネットなどによる効果的な情報発信を推進します。</p> <p>また、「観光地・霧島」としてのブランド戦略を明確にし、市民、地域、観光関係者一体となったおもてなしや安心で快適な観光地づくりを展開します。</p>								<p>地域政策課、商工振興課、商工観光施設課、霧島ジオパーク推進課</p>		
施策の方針に対する達成状況(2018～2022)				後期計画における課題						
<p>■シティセールス活動やメディア、SNS等を活用し、本市の魅力や観光情報等を発信することで、知名度向上、観光客誘致に繋がった。</p> <p>■コロナ禍においても時期やターゲットを見極めた上で誘客キャンペーンを実施したことで、観光客の誘致に繋がった。海外向けにも情報発信を行い、鹿児島空港の国際線再開に向けて、本市の魅力や観光情報等のPRに努めた。</p> <p>■日当山西郷どん村の開業により、新たな本市の観光推進の拠点が整備された。観光施設の整備により、観光客等に快適な利用環境を提供することができた。</p> <p>■霧島ジオパークの拡大エリアの地域資源の掘り起こしを行い、新たに見どころとなるサイトの保全・活用状況等を示したサイトカルテを整備したほか、モニターツアーの実施により地域の遺産を活かす事例の共有と観光素材の活用方法を見出した。</p> <p>■環霧島会議と錦江湾奥会議の各種取組により、広域連携のスケールメリットを活かした周遊観光の推進に繋がった。</p> <p>■霧島周遊観光バス等の運行を通じて、観光地への利便性や回遊性の向上が図られた。</p>				<p>■「観光地・霧島」の更なる知名度向上に向けた新たなPR手法等を検討する必要がある。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の状況により、時期やターゲットを見極めて事業を実施する必要がある。</p> <p>■日当山西郷どん村の更なる情報発信を通して、観光誘客や周辺地域の活性化を図る。</p> <p>■観光素材のひとつとして、ジオパークサイトの情報発信とガイドツアーの推進に取り組む必要がある。</p> <p>■これまでの環霧島会議と錦江湾奥会議の取組の成果や必要性を適切に検証し、アフターコロナを見据えた効果的な事業への展開を図っていく必要がある。</p> <p>■観光客の更なる利便性向上を図るために、利用者のニーズに合わせた運行ルートやダイヤ等を検討する必要がある。</p> <p>■コロナ禍における施設の新たな利用形態の創出や利便性の向上を図り、施設への誘客を促進する必要がある。</p>						
成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上) △目標を未達成(100%未満)								
		単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	霧島市の観光に対する満足度	%	更なる増加を目指します	目標値	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0	
				実績値	-	-	-	-	未調査	
B	観光消費額	百万円	更なる増加を目指します	目標値	67,627.0	68,303.0	68,987.0	69,677.0	70,373.0	71.0%
				実績値	66,395.7	65,470.0	44,794.8	39,420.8	50,233.3	△
C	観光客数(宿泊+日帰り)	人	更なる増加を目指します	目標値	7,720,000	7,797,200	7,875,200	7,954,000	8,033,500	70.0%
				実績値	7,606,885	7,489,312	5,178,046	4,491,954	5,605,350	△
D	外国人宿泊客数	人	更なる増加を目指します	目標値	134,200	147,620	162,382	178,620	196,500	2.0%
				実績値	138,838	125,995	17,408	1,179	4,475	△
E	開発又は磨き上げた観光資源の数(累計)	本	更なる増加を目指します	目標値	47	49	51	53	55	100.0%
				実績値	51	53	53	53	55	◎
基本事業	5年間の取組内容			5年間の取組成果			後期計画における課題			
①国内外の観光客の誘致	<p>■観光客誘客のための素材説明会やエージェント訪問、メディアキャラバン等を実施した。</p> <p>■認知度向上を図るため、SNS等を活用し、市の魅力や観光情報等を発信した。</p> <p>■コロナ禍での誘客キャンペーンを実施した。</p> <p>■鹿児島空港の国際線就航・地域へのセールスや海外向けの情報発信を行った。</p>			<p>■テレビ、新聞、雑誌、WEBなど多数の媒体やSNSを活用し、本市の魅力や観光情報等を発信することで、認知度向上に繋がった。</p> <p>■コロナ禍においても時期やターゲットを見極めて各種キャンペーンを実施したことで、誘客に繋がった。</p> <p>■鹿児島空港の国際線再開を見据えた海外向けの情報発信を行った。</p>			<p>■「観光地・霧島」の更なる知名度向上に向けた新たなPR手法等を検討する。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の状況により、時期やターゲットを見極めて事業を検討する。</p>			

基本事業	5年間の取組内容	5年間の取組成果	後期計画における課題
②観光素材の創出と活用	<ul style="list-style-type: none"> ■物産館と観光案内所等が一体となった日当山西郷どん村の運営を開始した。 ■肥薩線沿線の周遊観光ルート整備(県事業)により、川崎祐宣記念公園と丸岡公園展望台に休憩施設を整備した。 ■霧島ジオパークのエリアを拡大するため、新たな地域資源の掘り起こしを行った。 ■環霧島管内の関係者を対象としたモニターツアーを実施した。 ■霧島ジオガイドネットワークの活動支援やガイド養成講座を実施した。 ■環霧島会議と錦江湾奥会議の構成市町が連携して、旅行エージェントやマスコミを招聘したモニターツアー等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光協会や日当山西郷どん村の管理運営事業者と連携して、施設の利用促進や地域の活性化を図ることができた。 ■各公園に休憩施設を整備したことにより、観光客等に快適な利用環境を提供することができた。 ■拡大エリアの地域資源の掘り起こしを行い、新たに見どころとなるジオパークサイトの保全・活用状況等を示したサイトカルテを整備した。 ■モニターツアーの実施により、地域の遺産を活かす事例の共有と観光素材の活用方法を見出した。 ■ガイドのスキルアップが図られ、新たに11名のガイドを養成した。 ■環霧島会議と錦江湾奥会議の構成市町が連携してモニターツアーや合同セールスを実施することにより、事業実施に係るスケールメリットが図られ、行政区域を超えた周遊観光の推進に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■日当山西郷どん村の更なる情報発信を行い、観光誘客や周辺地域の活性化を図る。 ■順次、整備を進める肥薩線沿線の周遊観光ルートの活用により、観光誘客やJR肥薩線の利用拡大を図る。 ■ホームページ等を活用したジオパークサイトの情報発信を行う。 ■地域資源を活用したガイドツーリズムを推進する。 ■これまでの環霧島会議と錦江湾奥会議の取組の事業効果や必要性を適切に検証し、アフターコロナを見据えた効果的な事業への転換を図る。
③利便性の高い観光地づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■霧島高原国民休養地において新たなトイレの設置や入浴施設のリニューアルを行った。西郷公園にレストランを併設したコワーキングスペースが指定管理者により整備された。 ■隼人駅構内のバリアフリー化を推進するため、JR九州が整備を進めてきたエレベーターや多目的トイレの設置などに対する支援を行った。 ■霧島周遊観光バスの運行ルートの実証運行(2018年度に海コースを新設)を行い、ニーズ調査を行った。 ■観光バス等の運行ルートや時刻表を掲載したパンフレットを作成し、配布した。市ホームページにも掲載し、周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな施設整備により、施設利用者の利便性の向上が図られた。西郷公園にコワーキングスペース等が整備されたことで、施設の新たな利用形態の創出が図られた。 ■隼人駅のエレベーター設置や案内板の多言語表記を通じ、高齢者、障がい者を含む国内外の旅行者が安心して移動できる環境が整備された。 ■霧島周遊観光バスや霧島連山周遊バスの運行を通じて、観光地への利便性や回遊性のニーズの把握が出来た。 ■観光バス等の運行ルートや時刻表を掲載したパンフレットを作成し、駅や主要観光施設で配布したほか、市ホームページにも掲載したことで、利用者の利便性の向上に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■コロナ禍における施設の新たな利用形態の創出や利便性の向上を図り、施設への誘客を促進する。 ■霧島神宮の国宝指定に伴い霧島神宮駅の観光客利用者の増加が見込まれることから、今後も継続して、JR九州(株)に対し、バリアフリー化(エレベーター設置)を要望していく必要がある。 ■国内外観光客の移動ニーズ等を踏まえ、鹿児島空港、丸尾、霧島神宮、霧島神宮駅等を周遊する新たな移動手段の確保に努める。 ■利用者のニーズに合わせた運行ルートやダイヤ等の設定と適切な周知を行う。